

徒手搬送訓練

～指導要領～

1 準備するもの

- ・なし

2 指導のポイント

- (1) 徒手搬送はあくまで選択肢の1つであり、担架等があればそちらを使う
- (2) できるならば搬送する前に応急手当をおこなう
- (3) 場合によっては症状が悪化してしまうため、なるべく安静にして搬送する
- (4) 搬送するときは腰を痛めやすいので注意する
- (5) 二人で搬送するときは足から運ぶ

3 指導要領

～導入～

指導者：今から搬送方法について学んでもらいます。

搬送の方法は担架を使った方法もありますし、徒手（手を使った）搬送方法もあります。

間違っほしくないのは、今日学ぶ搬送方法はあくまでも選択肢の1つだということです。

たとえば、後ろから引きずるようにして搬送する方法があります。

ではこの方法ですべての人を運んでほしいかということそうではありません。

あくまでも「その人にとって最適な搬送方法はなにか？」それを判断してください。

場合によっては搬送する人の症状が悪化してしまうため注意が必要です。

また、搬送する前には応急処置をすることを忘れないでください。

～搬送方法（徒手）の説明～

指導者：今日は徒手（手を使った）搬送の方法を学んでもらいます。

徒手搬送には「一人で運ぶ方法」と「二人で運ぶ方法」があります。

担架が近くに無かったり、危険が迫っているため緊急的に移動が必要な時に徒手搬送を用います。

～一人での搬送方法の説明～

指導者：一人の搬送方法もいくつかあります。

「おんぶ」や「抱っこ」もそうです。

今から実施する方法は「後ろから運ぶ」方法です。

この方法は緊急時や体の大きな人を運ぶときに用います。

ただし、引きずるように運ぶため注意が必要です。

- ① 傷病者の上体を起こします
 - ② 両わきの下から手を入れて、傷病者の腕を持ちます
 - ③ 傷病者のおしりを床から上げます
 - ④ 安全な位置へ搬送します
- 搬送するときは後ろ向きに搬送します



～二人での搬送方法～

指導者：その場に二人いた場合の搬送方法です。

一人は先ほどの「一人での搬送方法」と同じ持ち方をします。

もう一人は足を持ちます。この時、傷病者の足をクロスして持つと持ちやすいです。また、腋に抱えるようにして持つようにしましょう。その方が片手で持つことができ、空いた手で障害物等をどかしやすいです。

- ① 傷病者の上体を起こします
- ② 両わきの下から手を入れて、傷病者の腕を持ちます
- ③ もう一人が足側について、足をクロスさせて抱えます
- ④ 傷病者の上体側から立ち上がります
- ⑤ 搬送する時は足の方から搬送します



～注意点～

指導者：注意する点として5つあります。

- (1) 徒手搬送はあくまで選択肢の1つであり、担架等があればそちらを使う
- (2) できるならば搬送する前に応急手当をおこなう
- (3) 場合によっては症状が悪化してしまうため、なるべく安静にして搬送する
- (4) 搬送するときは腰を痛めやすいので注意する
- (5) 二人で搬送するときは足から運ぶ

～実技～

指導者：それでは実際にやってみましょう。